

点描くんま経済

日銀支店長

見聞録

58

「無知の知」。この言葉を皆さんご存じだと思いが、「自らの無知を自覚することが真の認識に至る道である」とする、ギリシヤの哲学者、ソクラテスの考え方だと言われる。

この言葉を思い出したのは、群馬県東部のある市にお邪魔したからだ。桜の時期にお花見の会にお呼びいただいたので赴いたのだが、勤務している前橋市からはやや遠い。せっかくの機会と思い、会合の前に市内の企業を訪問させていただいたほか、ツツジのきれいな公園、ある企業のミュージアムや記念館にお邪魔したのだ。

県東部での発見

「無知の知」にウキウキ

私は仕事柄さまざまな方々とお話しさせていただく機会が多いのだが、そのたびに新しい発見をしている。何とも新鮮でウキウキする。そのいくつかをご紹介しましょう。

一つ目。コンクリートは固める時に振動させる必要があるとのこと。うーん、知らなかった。振動を与えることにより、骨組みの間にコンクリートが入った

の振動数が落ちてくるので、これをコンピュター制御するという工夫をしておられる。

二つ目。畜産で排出されるふん尿、生ごみ、汚泥を有機肥料にリサイクルするためには、攪拌して空気を入れてあげる必要があるとのこと。空気を入れると、どこにでもいる「微生物」が活躍している。同じスライムが違つらしい。同じスライムが違つらしい。同じスライムが違つらしい。

三つ目。小麦を小麦粉に粉碎する時、小麦が間を通る二つのローラーは、回るスピードが違つらしい。同じスライムが違つらしい。

四つ目。ツツジは、花粉が同じ花の雌しべに付く「自家受粉」を避けているとのこと。すなわち、違つ花の花粉が付くことによつて、遺伝子の組み合わせのバリエーションを広げているのだ。純粋培養は避けた方が良いのは、人間も一緒ですね。

以上、私が新しく知ったことをご紹介しましたが、皆さん、いくつ「ふるい」にかけつつ、ご存じでした？



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。